

平成 30 年第 1 回定例会
東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ特別委員会
平成 30 年 3 月 8 日

渡辺(ひ)委員

今資料を配付させていただきましたが、それに関連をいたしまして、前回の委員会でも質問させていただきました江の島における津波避難誘導対策について、さらに何点か質問をさせていただきたいと思っています。

はじめに、東京 2020 開催時の津波に対する避難計画に関して、どこが主体となって計画を策定するのかまず確認させていただきます。

セーリング課長

東京大会の津波に対する避難経路ですが、開会主催者であります組織委員会が計画を策定することになっております。

渡辺(ひ)委員

組織委員会が主体となっているということですが、この計画について現在どのような検討状況なのか、これも併せて教えていただきたいと思います。

セーリング課長

津波避難計画につきましては、現在組織委員会が策定に向けて作業を進めているところでございます。神奈川県、藤沢市も相談を頂いておりまして、いろいろな資料の提供や技術的な見地からの助言を行うなど、協力をさせていただいているところでございます。東京大会のときに江の島会場の万全の避難体制が構築されるように、組織委員会、藤沢市と連携して検討を進めていきたいと、県としては考えております。

渡辺(ひ)委員

作業を進めているという御答弁ですが、先ほど他の委員からも御紹介がありました。本日付けの一部報道の中に、その避難計画について、これは組織委員会と市がそれぞれすり合わせをしながら進めているという記載があって、その記事の中に組織委員会は計画の策定期を、大会 1 年前を目どとするという記載があるのです。この記事を読むと、今の御答弁で、いかにも着々と進めているような御答弁だったのですが、実際に 1 年前を目どという話になると、先ほど来出ているように、ではプレプレ大会、プレ大会はどのようなこと、当然プレ大会、プレプレ大会と本大会は大会の規模が違うにしても、計画策定がその時期になってしまうという報道を見ると非常に心配になります。これだけ指摘させていただきたいと思います。

その上で、組織委員会が基本的にやるということであれば、ではプレ大会、プレプレ大会、特に今年 9 月に迫っているセーリングワールドカップ、この大会についてはもうあと半年しかありません。この大会についての避難計画はどうなっているのか確認したいと思います。

セーリング課長

セーリングのワールドカップシリーズの江の島大会の避難計画でございますが、こちらは大会主催者であるワールドカップの実行委員会が策定することになっております。

ワールドカップのときには客席を設置する予定がございません。ただ、県と

しては、できるだけ大勢の方に来ていただきたいというふうに考えておりますので、避難計画についてももしっかり検討する必要があるというふうに考えております。避難計画の策定に当たりましては、本大会と同様に藤沢市、実行委員会と連携をして、しっかりしたものを策定していきたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

何度も言うように、そうは言いながらも時期があまりにもないということです。本大会になれば観客席が5,000とかいろいろな規模があって、計画は別途になるのだと思うのです。前回の委員会でも質問させてもらいました。基本的に逃げるという方策が重要だと。では、どれだけ逃げた人員が収容できるのか、どれだけその時期に江の島付近に人がいるのか、これすら今まだ出ていないわけです。そういう意味で、非常に不安を感じるわけです。

その上で、今の御答弁は一応理解をしましたが、具体的にはこの湘南港の津波対策として、どのような対策がとられるのか、改めて確認をしたいと思えます。

砂防海岸課長

湘南港におきましては、津波が発生した場合、利用者などは藤沢市が定めました江の島サムエル・コッキング苑など、島の高台にある津波一時避難所に避難していただくことにしております。また、県におきましては、海に出ている漁業者など、逃げ遅れる方のために、ヨットハウスや船具倉庫の上に津波避難施設を整備しております。

渡辺(ひ)委員

そうは言いながらも、例えば観光客が非常に多い。要は江の島という地域の特性というのは分からない方々がたくさん来るわけです。そうなってくると大事なのは、感覚ではそういうところへ逃げれば良いというような雰囲気もあるが、例えばヨットハウスに逃げる認識はあまりない。高台に逃げれば本当にいいのか。要は江の島ではどれぐらいの高さの津波が来る危険性があるのか、そういう情報もなく観光客の方はいらっしゃる。そういう方を誘導していくというのは、非常に大事だと思うのです。その誘導のための方策に現在湘南港ではどんなことに取り組んでいらっしゃるのか伺いたいと思えます。

砂防海岸課長

日常的な状況で御説明いたしますと、現在湘南港は指定管理者制度を導入しております。災害時、荒天時の対応など、港のサービスにつきましては、(株)湘南なぎさパークが行っているところでございます。

この湘南なぎさパークにおきましては、湘南港における地震や津波などの災害発生時の対応としまして、湘南港防災行動マニュアルを策定してございまして、津波警報などの発令時には、このマニュアルに基づき職員が港内放送やハンドマイクにより周知するとともに、島の高台の津波一時避難場所への誘導などを行うこととしてございます。

また、海に出ている利用者に対しましては、津波避難標識として、オレンジ色と黒色の旗を独自に定めまして、この旗をハーバー内のポールに掲揚し、津波警報が発令されたことを会場にいる利用者の方に伝達するということとしてございます。

渡辺(ひ)委員

その辺りの対応はされているというふうに理解をしましたが、やはり円滑に誘導することには、更なる取組が必要だと私は思います。

神奈川県が県土整備局が中心になって、湘南海岸全体の海沿いには、津波情報という看板、どこに逃げたらいいかという看板が道路沿いに設置されていることは承知しているのですが、具体には湘南港ではそのような対策は打たれているのですか。

砂防海岸課長

この看板ですが、津波に対するソフト対策ということで、津波警報等を自動で電光表示します津波情報盤を各海岸に設置してございます。この情報盤が設置されない海岸には津波情報看板ということで、13海岸に69基を設置しまして、海岸事業者に対して津波避難に関する情報を提供しているという状況ですが、湘南港におきましては、この看板を設置されてございません。

渡辺(ひ)委員

衝撃的な御答弁を頂きましたが、やはり大会に向けては、湘南港でのそのような施設整備が非常に重要だと思うのです。私は藤沢出身で先週の日曜日江の島へ行きました。そうしますと海岸とか壁とかにそれなりの避難の誘導の経路図みたいなのが、こちら、左と書いてあるのですが、皆さん御存じの感覚だろうと思いますが、人がいっぱいだと見えません。特にオリンピック開催中なんということを考えたり、また地震が来てパニックになったなんということを考えると、あの狭い参道が避難路になっていて、その先の石段のあたりにシールが張ってあったりして、とても見える状況ではない。これで本当に機能するののかという疑問があるのです。その上で質問なのですが、皆様に資料配付させていただきました。

これは実は東京都が主に活用しているピクトグラム。絵は世界共通ですから、藤沢市などで使っている絵と全く一緒です。これを今言った避難をするときに、どうしても壁だとか、海岸だとか道路等に設置してある、こういうピクトグラム・図だと見えないのです。なので、これは3メートルぐらいありますが、比較的人がうわーっと押し寄せても、ちゃんと避難場所がどちらなのか見えるようなものを設置しているのです。これはあるNPOが開発しているものですが、これはソーラーがついていて、避難場所が掲示されていて、さらにその下に、実はこれはたまたまオリンピックのスポンサーですが、地域の企業だとか、そういうスポンサーが掲出して、行政は無料でこれを設置し、NPOが管理するという。そういう意味からすると、行政にとっては一石二鳥のシステムでやっているのですが、こんなことがあります。

こんなことも、やはり先ほど言った湘南港が何も整備されていないということ踏まえると、取り組んでいくべき必要があるのかなと思うのですが、その辺いかがですか。

砂防海岸課長

先ほど委員がおっしゃられた、人がいると見えないではないかという案内表示なのですが、高台への避難経路上や、湘南なぎさパークが管理する駐車場などに、市と湘南なぎさパークが共同して避難場所までの経路を案内する標識と

ということで、今設置をしているところでございます。

ただ、湘南港やその周辺にある誘導標識は数が不足しているとか統一したデザインとなっていないこと、多言語化に対応していないという、いろんな課題がございます。先ほど委員がおっしゃられたように見えないという部分の課題もでございます。

例えば多言語対応に関しましては、委員のお示しいただきましたこういうピクトグラムという絵文字を用いることが有効だといわれておりまして、平成 28 年度には内閣府及び経済産業省が、統一デザインとして日本工業規格に災害種別避難誘導標識システムを制定してございます。県では今後湘南港やその周辺についても、この国の統一デザインを用いるなど、諸外国からの来港者や年少者等にも分かりやすい避難誘導標識の整備について、藤沢市などとも連携しながら検討を進めていきたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

是非御検討を願いたいと思います。一部この黄色い表示だと、例えば景観の問題とか発生するという危惧もありますが、道路標識を見ると赤い表示や黄色い表示はある、ある意味、景観を無視しながら安全優先で付いていますので、そういう意味では問題ないかなと思いますので、是非検討をお願いしたいと思います。

その上で、今後この湘南港の整備で、さらに取組があれば教えていただきたい。

砂防海岸課長

オリンピックにおきましては、地理に不慣れな観客の方も多く訪れますので、先ほど答弁しました分かりやすい誘導標識の設置の検討のほか、来年度整備を予定しておりますセーリングセンターの屋上を津波発生時に利用者等が一時避難をすることができるよう検討を進めておりまして、オリンピックに向けてより多くの方が円滑に避難できるよう、湘南港の管理者として万全を期してまいります。

渡辺(ひ)委員

いずれにしても、江の島というのは非常に多くの方が来られる。さらには、大会をやると更に観客が来られる。その中で、逃げ道というのが高台の上に逃げるといってお話でしたが、あの狭い人がすれ違えないような参道を抜けるのと、あともう一つ、大会会場の裏から抜ける場所、2箇所しかないのです。そういうことからすると、避難誘導というのは非常に重要な課題になると思いますので、是非前向きな御検討をお願いしたいと思います。

次に、大会時の駐車場の開閉について質問したいと思います。

おかげさまで当局の方々の御尽力もあって、江の島大橋については今 3 車線化の工事が進んでおります。これについては慢性的な駐車場待ちの渋滞が解消できる。さらには、その渋滞が 134 号まで続いて、江の島を利用しない方々にも渋滞の影響がある。これが解消できるという期待が高まっております、地元としても非常に喜んでおります。

その上で、私が質問したいのは、大会開催時、要するに本番なのですが、真夏の海水浴のトップシーズンなのです。その上で、先ほど御答弁の中にもあり

ましたが、大会の機運を盛り上げるというので、江の島エリアの沿岸からも盛り上げているのだという話がありました。このとおり沿岸というのは海水浴客がいて、さらに盛り上がったこのオリンピック関連の観客が島外にもいて、さらには島内には競技者がいて、非常に混雑する状況が予想されます。

そんな中で、今想定されているのは、大会期間中は島内の今使っている駐車場について使用制限というか、中に車が入れないような状況になるのではないかというようなことで、地元の方は非常にどうしたらいいかというふうに心配をしています。夏のシーズンですから、島外の江の島周辺の駐車場も満杯状態、さらには中が閉鎖されて駐車場の数が減る。更に観客が増えてくる。県と市は行政として盛り上げて、更に人を呼ぼうとしている。この駐車場問題はどのようなのだというふうに思うわけです。

先ほどは漁業権という話がありましたが、ある意味では地元の商店街の方々、特に島内の商店街の方々は、当然オリンピックに賛同して協力したい、あわせて協力はするが、オリンピックとあわせて観光振興として多くの観光客に来ていただきたい、そのときにこの駐車場問題が出てくると、逆にいうと営業権という、要は負の部分にも影響する可能性がある。そういうことで質問をさせていただきますが、島内の駐車場が利用できなくなった場合に、要は代替の駐車場をどのように考えていらっしゃるのか、教えていただきたい。

セーリング課長

委員御指摘のとおり、島内につきましては、競技会場になってセキュリティエリアの中に入ってしまうと、駐車スペースを利用するのが制限されます。その分どうするかということにつきましては、具体的に検討してまいります。今の考え方としては、住民生活や事業活動等、それから大会運営を両立させるのだというのが、現在の組織委員会の考え方でございます。具体的な方策として、交通マネジメントをしっかりとやっていくといったことも出ており、江の島の事情をしっかりと踏まえた交通マネジメントにつきまして対応を、組織委員会と連携しながら検討していきたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

この委員会でもずっとやってきていますが、様々な検討が、先ほどの避難経路もそうですが、我々若しくは県民の立場から見ると遅過ぎる。ともすれば、施設整備も含めてやっていかなければいけないということになれば、やはり早目早目に決めてもらわないとできないわけですね。今の駐車場問題は、現行の駐車場を活用できるのであればいいのだが、それでは駄目だという話になったときに、例えば仮設駐車場をつくるだとか、若しくは今の駐車場を増設するだとか、そういうことだってあり得るかもしれない。その辺の検討を是非お願いをしたいと思います。

当然組織委員会やその辺の立場の方は公共施設を利用という話になるのですが、夏場のピーク時、さらにはオリンピック時、本当に公共施設だけで回っていくのかという気もするのです。そこで、例えば片瀬江ノ島駅からは歩いていけるが、辻堂とか藤沢とか少し離れた場所の駐車場の活用、若しくは公共施設を活用したりして、分散させなければいけないと思うのですが、そんなときに、そういう場所から江の島まで、若しくは江の島周辺まで臨時バスを増発すると

か、そういう具体的なことをそろそろ検討しなければいけないと思うのですが、その辺はいかがですか。

セーリング課長

今委員からお話のとおり、臨時バスでございますが、マイカー利用から公共交通機関の利用への転換を促すという点で、大変有効な対策の一つであると考えておりますので、県といたしましても、組織委員会と連携しながら、こういった有効な対応策の具体化に向けて検討していきたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

臨時バスもいろいろ考え方があります。サービスで無料の臨時バスもあれば、例えばあのエリアだったら、小田急だとか江ノ島電鉄といった通常の営業をしているバスがあります。そういうバスで有料であってもいいのだと私は思うが、それであればあまり無理がない。あとはその辺の交通整理というのか、運用の仕方だけだと思うので、しっかりとそれを早く協議をしていただきたいと思っておりますので、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後の質問になりますが、今言った大会時に島内の駐車場が利用できるかどうかというのは大きな課題だというふうに思ひますが、地域の方々の島内の営業されている方々の御理解が非常に重要だと思うのです。やはりいろいろな意味での協力ということもあるのでしようし、その辺については、今後どのように取り組んでいくのか。

セーリング課長

県では江の島セーリング競技推進連絡会議という会議を設置してありまして、そこには地元の商工会議所、観光協会、関係団体、当然沿岸の自治体、それから島内の住民関係の団体の皆さんにも御参加を頂いてあります。ここで輸送関係の検討や、そのほかにもいろいろ想定されてあります課題につきまして、情報共有、意見交換をさせていただいてあります。こうした場を活用いたしまして、地域の皆様に丁寧に御説明を行いながら、皆様の御理解と御協力を頂きたいと、そのように考えてあります。

渡辺(ひ)委員

最後に御要望をさせていただきますが、先ほど来委員会でもありましたが、御答弁もありますが、やはり盛り上がった機運、協力していく機運の醸成をしていく。地元の方々の負の意味での負担をなくしていく。これは非常に重要な部分です。そういうことからすれば、やはり特に江の島の中の商業活動をされている方々、組合の方々、そういう方々が本当に盛り上がって、例えばオリンピック前に来た観光客の方々に、また7月からオリンピックがあるからまた来てよ、みたいな働きまでできるような機運の醸成というのは、やはり先ほど言った駐車場整備というのは一つの大きな要因だと思うのです。

オリンピック時に、オリンピック時にはちょっと混むからあんまりですよ、なんていう言葉が出るようでは駄目なので、そこで盛り上がるような、さらに観光客を呼べるような環境整備、その一環として駐車場対応というのはあると思うので、これについてはしっかりと御検討を願ひたいと思ひますので、是非よろしくお願ひしたいということをお願いさせていただいて、私の質問を終わります。